



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月6日

上場会社名 ロート製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4527

URL <https://www.rohto.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 瀬木 英俊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 CFO (氏名) 斉藤 雅也 (TEL) 06-6758-8223

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	81,964	19.9	11,699	△0.8	16,127	31.4	11,769	38.7
2025年3月期第1四半期	68,356	11.7	11,790	4.4	12,273	0.2	8,482	△6.7

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 7,769百万円(△51.7%) 2025年3月期第1四半期 16,071百万円(17.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	52.09	51.39
2025年3月期第1四半期	37.18	37.08

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	428,326	284,147	62.2
2025年3月期	437,039	280,737	60.2

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 266,359百万円 2025年3月期 262,990百万円

(注) 2026年3月期第1四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	16.00	—	20.00	36.00
2026年3月期	—				
2026年3月期(予想)		21.00	—	21.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	334,500	8.4	39,000	2.0	43,000	8.2	31,500	2.1	139.40

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 対前期増減率は、2026年3月期第1四半期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した遡及修正後の数値で算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1社(社名) ロート・メディリユク、除外 1社(社名) —
ス・ヨーロッパ社

(注) 詳細は添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期1Q	236,178,310株	2025年3月期	236,178,310株
2026年3月期1Q	10,213,942株	2025年3月期	10,213,934株
2026年3月期1Q	225,964,374株	2025年3月期1Q	228,138,775株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	11
(企業結合等関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国の経済は、雇用や所得環境の改善、円安を背景とした訪日外国人旅行者数の増加により、景気は緩やかに回復しました。個人消費については物価高に伴う消費者の節約志向の高まりにより伸び悩む状況が続いています。一方、アメリカの関税政策に端を発した貿易摩擦や中国経済の成長力低下など海外経済の減速懸念の持続、長期化するウクライナ情勢を背景とした資源・資材価格の高騰による国内物価の上昇等、景気の先行きは依然として不透明な状況が継続しております。

このような状況のもと、2025年5月13日に「ロートグループ 中長期成長戦略 2025～2035」および「長期視点での成長を実現するための経営方針」を公表いたしました。当社の存在意義（パーパス）は、「世界の人々に商品やサービスを通じて『健康』をお届けすることによって、当社を取り巻くすべての人や社会を『Well-being』へと導き、明日の世界を元気にすること」と定義しており、その実現に向けて日々取り組んでおります。

その結果、売上高は、819億6千4百万円（前年同期比19.9%増）と大幅な増収となりました。国内におきましては、お客様のニーズに合った商品提案やインバウンド需要の増加により増収となりました。海外におきましても、お客様のニーズに合った商品提案に加えて、シンガポールの漢方薬等製造販売企業であるユーヤンサン・インターナショナル社やオーストリアの医薬品・医療機器等製造販売企業であるモノ社の業績を前第3四半期連結会計期間より連結の損益に含めたことにより増収となりました。

利益面につきましては、原価率の上昇に加え減価償却費やのれん償却額、人件費の増加により販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は116億9千9百万円（同0.8%減）となりました。受取配当金の増加などにより経常利益は161億2千7百万円（同31.4%増）、親会社株主に帰属する四半期当期純利益につきましては、117億6千9百万円（同38.7%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

（日本）

外部顧客への売上高は、407億5千7百万円（前年同期比0.6%増）の増収となりました。

サプリメントの「ロートV5」や新製品が好調なリップクリーム、新製品のヘアマスク「GYUTTO」等が好調に推移いたしました。国内グループ会社におきましては、ロートニッテン(株)が増収に寄与しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、原価率の上昇に加え販売費及び一般管理費が増加したことにより、63億1千万円（同3.9%減）と減益となりました。

（アメリカ）

外部顧客への売上高は、50億4千4百万円（前年同期比0.6%増）の増収となりました。

医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス・ラボラトリーズ社が引き続き好調に推移しました。また、「肌ラボ」が好調なブラジルの連結子会社も増収に貢献しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、販売費及び一般管理費が増加したことにより、1億8千4百万円（同39.4%減）と減益となりました。

（ヨーロッパ）

外部顧客への売上高は、55億7千2百万円（前年同期比43.3%増）と大幅な増収となりました。

ポーランドのダクス・コスメティクス社が「Perfecta」や販売国を拡大した「Hadalabo Tokyo」の好調を受け増収に貢献しました。また、2021年から「ロート ドライエイド」により目薬市場の開拓を進めております。加えて、モノ社も売上に貢献しています。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、英国において消炎鎮痛剤の容器供給業者の倒産による生産量低下と代替業者の単価上昇により原価率が上昇し、1億3千4百万円（同62.2%減）と減益となりました。

(アジア)

外部顧客への売上高は、297億4千3百万円（前年同期比64.4%増）と大幅な増収となりました。

ベトナム、インドネシアなどの東南アジアが引き続き好調に推移しました。加えてユーヤンサン・インターナショナル社が売上に寄与しました。一方、ミャンマーは輸入規制の厳格化の影響を受けて原材料や製品の輸入が困難になり引き続き減収となりました。商品別では「肌ラボ」、フケ抑制シャンプー「セルサン」、リップクリーム、「アクネス」等が増収に寄与いたしました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、47億7千7百万円（同10.6%増）と増益となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は4,283億2千6百万円となり、前連結会計年度末より87億1千2百万円減少いたしました。これは、原材料及び貯蔵品が17億5千7百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が19億3千4百万円、のれんが18億6千万円、有形固定資産のその他が18億5千8百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債総額は1,441億7千8百万円となり、前連結会計年度末より121億2千3百万円減少いたしました。これは、支払手形及び買掛金が19億4千7百万円増加した一方、流動負債のその他が54億3千5百万円、未払法人税等が21億2千7百万円、賞与引当金が20億8千1百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては2,841億4千7百万円となり、前連結会計年度末より34億1千万円増加いたしました。これは、利益剰余金が71億5千8百万円増加した一方、為替換算調整勘定が48億3千9百万円減少したこと等によるものであります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度末との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いています。詳細につきましては、「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（企業結合等関係）」をご参照ください。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

〔2026年3月期 通期の連結業績予想〕

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	334,500	39,000	40,500	31,100	137.63
今回修正予想(B)	334,500	39,000	43,000	31,500	139.40
増減額(B-A)	—	—	2,500	400	—
増減率(%)	—	—	6.2	1.3	—

連結業績予想につきましては、第1四半期に計上した受取配当金を連結業績予想に反映させ、2025年5月13日に公表した連結業績予想を修正いたします。経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表を上回る見込みです。なお、為替レートは1ドル142円、1中国元19円の想定から変更しておりません。

詳細につきましては、本日（2025年8月6日）公表いたしました「業績予想の修正のお知らせ」をご参照ください。

※上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	77,161	75,839
受取手形及び売掛金	47,129	45,195
電子記録債権	23,261	21,826
商品及び製品	36,386	36,293
仕掛品	5,059	4,978
原材料及び貯蔵品	20,135	21,892
その他	9,255	9,554
貸倒引当金	△510	△504
流動資産合計	217,879	215,077
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	33,288	33,059
その他（純額）	57,162	55,304
有形固定資産合計	90,451	88,364
無形固定資産		
商標権	26,955	25,572
のれん	34,793	32,932
その他	9,484	9,148
無形固定資産合計	71,233	67,653
投資その他の資産		
投資有価証券	46,427	46,465
退職給付に係る資産	2,149	2,100
その他	16,282	16,124
貸倒引当金	△7,484	△7,556
投資その他の資産合計	57,375	57,133
固定資産合計	219,060	213,150
繰延資産		
社債発行費	99	98
繰延資産合計	99	98
資産合計	437,039	428,326

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,050	20,997
電子記録債務	3,006	3,101
短期借入金	7,035	6,843
未払費用	20,138	18,199
未払法人税等	5,975	3,847
賞与引当金	4,161	2,079
役員賞与引当金	65	29
その他	35,175	29,739
流動負債合計	94,608	84,839
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	25,370	25,357
長期借入金	17,818	16,682
退職給付に係る負債	1,770	1,765
債務保証損失引当金	3	3
その他	16,731	15,530
固定負債合計	61,693	59,339
負債合計	156,302	144,178
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,504	6,504
利益剰余金	231,713	238,871
自己株式	△9,939	△9,939
株主資本合計	228,278	235,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,466	10,512
為替換算調整勘定	23,820	18,980
退職給付に係る調整累計額	1,425	1,429
その他の包括利益累計額合計	34,711	30,922
新株予約権	382	382
非支配株主持分	17,363	17,404
純資産合計	280,737	284,147
負債純資産合計	437,039	428,326

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	68,356	81,964
売上原価	29,280	36,111
売上総利益	39,076	45,852
販売費及び一般管理費	27,285	34,153
営業利益	11,790	11,699
営業外収益		
受取利息	439	237
受取配当金	289	4,106
持分法による投資利益	1	64
為替差益	-	378
その他	133	258
営業外収益合計	865	5,045
営業外費用		
支払利息	65	316
貸倒引当金繰入額	165	73
投資事業組合運用損	20	141
その他	131	85
営業外費用合計	382	617
経常利益	12,273	16,127
特別利益		
投資有価証券売却益	-	4
関係会社株式売却益	39	-
特別利益合計	39	4
特別損失		
減損損失	16	-
投資有価証券評価損	201	1,058
特別損失合計	218	1,058
税金等調整前四半期純利益	12,094	15,074
法人税等	3,609	3,021
四半期純利益	8,484	12,052
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	283
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,482	11,769

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	8,484	12,052
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,306	1,046
為替換算調整勘定	6,312	△5,325
退職給付に係る調整額	△32	3
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△8
その他の包括利益合計	7,586	△4,283
四半期包括利益	16,071	7,769
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,039	7,987
非支配株主に係る四半期包括利益	32	△217

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	40,534	5,015	3,888	18,091	67,530	826	68,356	—	68,356
(1) 外部顧客への売上高	40,534	5,015	3,888	18,091	67,530	826	68,356	—	68,356
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	925	486	32	1,188	2,633	28	2,661	△2,661	—
計	41,460	5,502	3,920	19,280	70,163	854	71,018	△2,661	68,356
セグメント利益	6,565	304	356	4,320	11,547	56	11,603	187	11,790

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、南アフリカ等の現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益の調整額187百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「アジア」セグメントにおいて、ユーヤンサン・インターナショナル社の株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては、32,258百万円であります。

また、「日本」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては16百万円であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、ユーヤンサン・インターナショナル社の株式を取得し、連結の範囲に含めたこと等により、前連結会計年度の末日に比べ、「アジア」のセグメント資産が115,107百万円、「その他」のセグメント資産が335百万円増加しております。

4. 当第1四半期連結累計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	40,757	5,044	5,572	29,743	81,119	845	81,964	—	81,964
(1) 外部顧客への売上高	40,757	5,044	5,572	29,743	81,119	845	81,964	—	81,964
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,103	373	49	1,394	2,921	40	2,961	△2,961	—
計	41,861	5,418	5,622	31,138	84,040	885	84,926	△2,961	81,964
セグメント利益	6,310	184	134	4,777	11,408	74	11,482	217	11,699

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、オーストリア等の現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益の調整額217百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	2,155百万円	3,579百万円
のれんの償却額	91百万円	506百万円

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であったロート・メディリュクス・ヨーロッパ社は重要性が増したことに伴い、連結の範囲に含めております。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な処理の確定

ユーヤンサン・インターナショナル社との企業結合

2024年6月3日に行われたユーヤンサン・インターナショナル社との企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額44,792百万円は、会計処理の確定により12,533百万円減少し、32,258百万円となっております。のれんの減少は、主に仕掛品が93百万円、商品及び製品が465百万円、商標権が26,527百万円、無形固定資産のその他が884百万円、固定負債のその他が5,873百万円、非支配株主持分が9,441百万円それぞれ増加したことによるものです。また、前連結会計年度末の商標権は26,110百万円、無形固定資産のその他は863百万円、固定負債のその他は5,664百万円、利益剰余金は3,268百万円、非支配株主持分は5,689百万円それぞれ増加し、のれんは12,353百万円、為替換算調整勘定は3百万円それぞれ減少しております。

モノ社との企業結合

2024年8月23日に行われたモノ社との企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額1,715百万円は、会計処理の確定により350百万円減少し、1,364百万円となっております。のれんの減少は、無形固定資産のその他が892百万円、固定負債のその他が205百万円、非支配株主持分が336百万円それぞれ増加したことによるものです。また、前連結会計年度末の無形固定資産のその他は891百万円、固定負債のその他は202百万円、利益剰余金は2百万円、為替換算調整勘定は10百万円、非支配株主持分は328百万円それぞれ増加し、のれんは347百万円減少しております。